

上郷東地区社会福祉協議会

地区社協だより 28号

発行日 令和6年1月31日

発行元 上郷東地区社会福祉協議会

発行責任者 会長 吉田正臣

連絡先 TEL&Fax (045)-895-1042

祝！ひよこカフェ 第35回栄区社会福祉大会にて ボランティア活動功労にて表彰される

令和5年11月28日、たっちーらんど(栄公会堂)ホールにて栄区社会福祉大会が開催されました。

ひよこカフェは、未就園の親子を対象とした子育て支援カフェを立ち上げ、永年にわたりシニア世代のスタッフが見守り・支え合いを行っています。

その功績に対し、ボランティア活動功労により顕彰されました。おめでとうございます。

表彰式典の後、講演会と合唱の披露がありました。



～「ファミリーホーム」という家庭の中で子どもたちとともに～講師 パング希江さん

パングさんは、高校からカレッジまでイギリスに留学され、そのホストファミリーが里親として里子を育てられていたとのこと。小規模住宅型児童養育事業(ファミリーホーム)を開設して実子2人とともに20年間で30人の子どもたちと生活されてきました。

子どもに添い続ける日々の暮らしは、涙と笑いの中で子どもに向き合う姿勢に圧倒されました。パングさん宅に来た子どもに対して、ゼロから始めるとのお話をしました。子どもたちの年齢は様々で幼少期に家庭でスキンシップや生活体験を経験していない子どももあり、暮らしの中で「歯を磨く」「清潔にする」などの“ふだんの当たり前の日常”こそが大切で、ゼロから始める中で子どもとの信頼関係を紡いでこられたようすをお聞きしました。

子どもたちは、18歳で措置がきれ自立することになります。子どもは進学してもマンションの他の階に住み、ご飯など食べにくる。そのような18歳以降を半分自立と説明された。パングさんの里子に添い続ける姿勢。悪いグループに入り服役後、またパングさん宅に戻ってくる里子。根っこが弱くて戻ってくる、いつでも戻つておいで、何かあってもなくても戻つておいでとの姿勢は、まさに“親心”そのもの。里子にそぐ深い愛をみた。

*日本では親や家族と一緒に暮らさない子どもたちを施設で養護する「施設養護」と家庭で養護する「家庭養護」の二つがあります。「家庭養護」の中にファミリーホームと里親の養護があります。



おめでとうございます！第70回神奈川県社会福祉大会にて

- 連合町会長の芦川弘様が共同募金運営功労者として県知事表彰を受けられました。
- サロン絆が神奈川県社会福祉協議会会长表彰を受賞されました。

第2回上郷東ふくしほけんまつり ～つながろう！地域の輪！～

日時:2023年10月22日 会場:野七里地域ケアプラザ

主催:上郷東地区社会福祉協議会 共催:上東つながるプラン

秋晴れの一日、第2回目となる「ふくしほけんまつり」を開催しました。

地域の方127名、協力者延べ73人の参加がありました。

今回は、上郷東地区で活動している各種団体、健康づくり・交流づくりの活動団体28団体がパネル展示や運営に携わりました。

地域の皆さん、地域の各団体、ボランティアの皆さまのご協力があってこそこの開催であり、大成功でした。心より感謝申し上げます。

参加者

地域の方:127名

協力者延べ:73名

参加団体:28団体

「～つながろう！地域の輪！～」とテーマを設定し、当地区の総力をあげて個人・各団体が参加・協力することで実現しました。暮らしの困難さ、健康、福祉、高齢化等様々な課題がありますが、ひとりからふたりへ、そしてサークルやサロンへと交流を通してつながりあって、声をかけ合い見守り・支え合いの地域の輪を広げていきたい願いを込めて開催しました。

サロンコーナー…サロン展示・コーヒー無料サービス
サロン展示を見て、仲間とくつろぐ皆さん
美味しいコーヒーは大人気でした



つながり分科会のワークショップ
企業の協力により靴下の輪っかを使って
小物づくりにチャレンジ！



つながるプラン・民児協の展示の前で説明を聞く皆さん



送迎サービスの実施
あいタク(相乗りタクシー)と企業の協力によるマイクロバス運行による送迎サービスは好評でした。

健康づくりの活動

を地域でおこなつて
いる、保健活動
推進員会のご協力
で前回に引き続き
健康測定を行いました。

栄区役所の保健師
さん・区役所から
の応援もいただきました。



車椅子の方
もボッチャ
を楽しまれ
ました

保健活動推進員による健康測定は大人気！

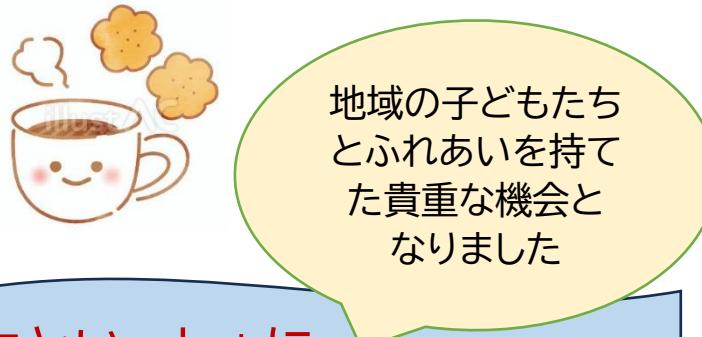
血圧、握力、野菜の摂取量がわかるベジチェック、足指力の測定を53名が体験しました



協力者へのお礼の挨拶の吉田会長とスタッフの皆さん



仮装した子どもたちも多数来場しました



地域の子どもたち
とふれあいを持
た貴重な機会と
なりました

庄戸小学校4年生といっしょに “町の人の困りごとにどうしたらよい？”を考えた！

12月7日、庄戸小学校4年生52名が野七里地域ケアプラザのお仕事について、勉強にきました。ちょうど、地区社協の会議を行っていたので一緒に勉強しました。

子どもたちの学校や生活場面での困りごとの解決事例をヒントに「町の人の困りごとにどうしたらよいか？」について取り組んでいる“社会福祉協議会”的活動をお話しました。

その後、子どもたちからの質問が寄せられ、1月11日に学校に出向いて答えてきました。“社協はいつからあるのですか？”“どのように困りごとを少なくしているのか？”等、子どもたちの社協や地域への関心の高さに頬もしく感じました。



令和5年度 コーディネーター共通研修(基礎編)にて事例報告 ～地域組織・地域活動に学ぶ～

9月12日、日本丸訓練センターにて開催された表記研修会にて、「地域活動の実際と地域活動者の思い」と題して吉田正臣会長と中野久恵事務局長が上郷東地区の取り組みを報告しました。

この研修会は、横浜市内の着任2年以内のコーディネーターの新人を対象とした研修会です。横浜市ではコーディネーターは、地域ケアプラザに生活支援コーディネーター・地域活動交流コーディネーターが配属されています。コーディネーターは住民主体の地域づくりを支援し地域の福祉活動にとつては欠かせない職種の方です。その方々に対して、事例報告を依頼されたものです。

上郷東地区社協が日頃取り組んでいる事業についての報告とそれらの企画・運営を地域の皆さんといっしょに進めてきた経緯やコーディネーターと一緒に取り組んでいる移動販売や運営会議のようすを報告しました。

吉田会長からは、地域のさまざまな団体や個人とつながって、楽しみながら力まずにやっていること。中野事務局長からは、地域の中でだれかとつながることが大切、点のつながりが線や面とな

りつながることができる話をしました。

もう一人の報告者の泉区民児協会長石井マサ子さんの報告の後、10 グループに分かれてグループワークが行われ、その結果を全体で共有しました。

参加者の皆さんからは、①コーディネーターとして、地域に出ていき情報収集をしたい、主役は地域の人、パイプ役になり地道に関係づくりをしていきたい②(住民に)心を開いてもらうまでに時間がかかる、上東の“楽しんで活動している”との報告に、“楽しんで活動”をスタンスにがんばりたい等が寄せられた。



つながるフェスタ ～戸塚と栄に生まれて、戸塚と栄で生きる～

12月20日、戸塚区と栄区の社会福祉協議会を中心となり戸塚区総合庁舎にて福祉施設などが集まったイベントが開催されました。

高齢者入所施設、障がい者支援施設、保育園・子育て支援拠点、ケアプラザなどの各機関の情報提供や相談窓口も設けられ関心が高く多くの方が参加されました。

高齢者入所施設も特別養護老人ホームや介護老人保健施設など種々あります。高齢者やその家族は、漠然と「必要になった時にすぐ入所できるの?」「どんな手続きがいるの?」「費用はどれくらいかかるの?」等の不安を抱えています。自分が動ける元気なうちに下見を兼ねて見学や相談にのっていただくことが各施設と「つながる」きっかけになると感じました。上郷東地区からは、連合町会、つながるプラン、民児協、地区社協等のメンバー14名が参加しました。

